

# 情報学教育の定着から更なる飛躍へ

研究会発足の原点に回帰しカリキュラム研究に特化

情報学教育研究会 代表 松原伸一

本研究会の前身である情報科教育法研究会は、2002年3月16日に発足しました。したがって、今月の3月16日には20年が経過し21年目を迎えます。したがって、来年度（2022年度）の活動は、その歴史に相応しくありたいと考えております。皆様のご理解とご協力を賜れば幸いです。

2022年度は発足の精神に回帰し、カリキュラム研究に特化して参ります。その内容は、次のように

- ①カリキュラムディベロプメント研究
- ②カリキュラムマネジメント研究
- ③カリキュラムイノベーション研究

として整理しています。特に、③では、2030年を視野に入れ、新々学習指導要領への提言のための基盤を充実させて参ります。カリキュラム研究は、これまでの20年間の成果をもとに新時代に合わせて展開されます。したがって、すべての関係者がベクトルを揃えて進めることが重要だと思えます。

引き続き、皆様のご理解とご協力を賜れば幸いです。

さて、2022年度以降の研究会の人事ですが、下記の通りとなりました。

代表 横山成彦  
事務局長 片山史啓  
総務理事 岩井憲一  
名誉代表 松原伸一

この度、2021年度末をもちまして本研究会の代表を退くこととなります。2022年度からは名誉代表という立場になりますが、側面から支援して行きたいと考えております。

また、別件となりますが、プロジェクトAAFを引き続き主宰いたします（[メッセージ参照](#)）。ここでは、「新教養教育研究」をテーマに、プロジェクト形式で進める新しいタイプの実践研究組織として、2022年度は、

- (1)感性に響く教養講座「NVNG感性教養」を開講し、
- (2)新情報誌「A&C（芸術とコンピュータ）」を創刊して、

研究成果の還元へ傾注して参ります。詳しくは、Webサイト（<https://pjtaaf.com/>）を参照願います。

なお、この研究は、JSPS科研費 JP16K04760（代表研究者：松原伸一）の助成を受けて、2016年度から2020年度までの5年間にわたる成果の内、ICT超活用、AGAA（芸活）などを感性に響く教育などの教育実践に還元するものです。こちらの方も併せてご理解とご協力を賜れば幸いです。

研究会発足記念日

2022年3月16日